



## 地域の一員として全校で取り組む

### 総合的な学習の時間

大館市立下川沿中学校 教諭 岸 博之

#### 1 はじめに

昨年度、東日本大震災における「釜石の奇跡」のVTRを全校生徒で観て、それについて全校道徳を行い、地域の一員として下中生には何が出来るかを全校生徒で話し合った。この話し合いがきっかけとなり、今年度、全校生徒で結集し、地域のための活動を行うことにした。その一つとして、総合的な学習を見直し、「ふるさと」というテーマをくみ入れた活動計画を再構成した。始めるにあたっては、生徒が自らの思いで進めることが大切であると考え、「全校生徒でふるさとを元気にするためにどんな活動ができるだろうか」というテーマで話し合わせ、活動の3つの大きな柱を決定した。

#### 2 活動の実際

##### (1) 全校生徒による川口獅子踊りの伝承

###### ① 全校での話し合いによる活動内容の決定

どんな形で伝承していくかを全校で話し合った。その結果、「全校で獅子踊りに取り組み、地域の人たちに元気を与えよう」ということに決定した。

###### ② 活動の流れ

- ・夏休み前にパートの希望を取り決定する。
- ・獅子踊りの有志の生徒から踊りを教えてもらいながら、生徒同士で学び合う。
- ・地域の方々を招いて演技を見てもらう。
- ・地域に披露する。

###### ③ 活動の進め方

総合的な学習の時間としてのねらいをはっきりとさせ、単なる練習にならないように、毎時間課題を提示し、前日の反省を基に生徒が主体的に学び合うというスタイルで行った。また、先生方も初めに獅子踊りのビデオを見合い、どのように進めていったらよいか検討し、練習の場面では生徒と一緒に関わりながら行ってきた。

###### ④ 獅子踊りの地域への披露（下中祭以外は、全校が分担しながら行う）

- ・生涯学習フェスティバル（中央公民館）
- ・下中祭（2部に分けて全校生徒で披露）
- ・きりたんぼまつり（樹海ドーム）
- ・下川沿地区文化祭（下川沿公民館）
- ・アメッコ市（アメッコ市特設ステージ）

##### (2) 立花ファームの活動への協力

###### ① 活動の経緯

毎年「なべっこ」のときのネギなど、いろいろな場面でお世話になっているので、それに対する感謝の気持ちを目に見える活動で伝えようと実施した。

###### ② 活動内容

全校生徒で歩いて立花ファームに行き、ネギ掘りとラベンダー畑の草取りに分かれて

作業した。最後には立花ファームの方々から活動に関する感想もいただいた。

### (3) 高齢者宅を訪問しての手伝いや交流

#### ① 訪問する高齢者宅の決定

市社会福祉協議会に相談し、地区の民生委員の方々の協力を得て今回訪問する場所を決定した。高齢者の方に訪問にあたっての要望を聞き、それぞれの班の活動の中心に据えた。それを基に活動する班を決め、3年生をリーダーとする縦割りの8班編制にした。

#### ② 訪問の計画を立てる

予め聞いておいた高齢者の要望に沿う形で班ごとに訪問の際の内容を具体的に決め、全員分のメッセージカードを作って、事前にリーダーが訪問してカードを渡してきた。

#### ③ 活動の様子

6つの班が高齢者宅を、2つの班がデイサービスセンター「えがお」を訪問し、高齢者との交流や電球の傘の掃除、草取り等を行った。交流では会話を中心にして、その他にお手玉を教してもらったり、笛の演奏を披露したり、歌ったりしてきた。活動後は、全員のお礼状に活動の様子の写真を添え、リーダーが訪問した場所に届けた。高齢者とのふれあいを通して、喜んでくださる様子を目の当たりにできた。

## 3 活動のまとめ

### (1) 生徒アンケートによる振り返り

どの活動においても取り組みに満足できた生徒が80%以上おり、今後の継続についても80%以上が続けた方がよいという結果であった。

### (2) 全校でまとめの話し合い

総合「ふるさと」のまとめとして、「下中生は地域を元気にすることができただろうか」というテーマで全校で話し合った。その際地域の方にも1名出席していただき、最後には「地域を元気にしてくれた。」「見えないところの活動を地域の人たちはわかっている。人にアピールするからよいのではなく、見えない活動を今後も大切にしてほしい。」「活動においては相手がいるのだから、人に押しつけず相手の気持ちを考えることが大切。今回はそれがよくできていた。」と好評価をいただいた。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・教師から一方的に与えられた活動ではなく生徒の考えでスタートしたものであったので、生徒の主体的な活動になった。
- ・多くの生徒が地域のために何かしたい、役に立ちたいと考えるようになった。
- ・今年度うまくできなかったことを来年度はもっとできるようになりたいと思ったり、新しく取り組める活動はないか考える生徒も出てきた。
- ・どの活動も人との交流なしにはできないことなので、コミュニケーション能力を高めるうえでも良い機会となった。

### (2) 課題

- ・なるべく多くの地域の方に見てもらいたいという生徒の意見であった。見てもらうことがすべてではないが、地域のためになったという成就感にもつながると考える。
- ・次年度以降も継続した活動にするため、計画の練り直しや再構築をしながら、活動の必要性を今後も生徒から引き出すことが大切である。